

アカ族のプアンちゃん

プアンちゃんは小学校5年生。両親とおばあちゃん、中学2年生のお兄ちゃんのソンパン君、5才のサナンちゃんの6人家族で、タイという国の一番北にある地域の山の中に住んでいる山岳^{さんかく}民族です。プアンちゃんの村は人口が290人で、村の中には58軒^{けん}の家があります。



プアンちゃんの住んでいる村は標高800mの山の中にあり、近くに学校はありません。月曜日の朝5時前に起きて、お兄ちゃんと一緒に6kmはなれたところにある学校まで歩いて行き、金曜日までは学校にとまって勉強しています。学校はお友達がいて楽しく、給食は栄養があり何回もおかわりができてたくさん食べられるので大好きですが、お母さんに会いたくて、夜にふとんの中で泣いてしまうことが時々あります。金曜日には家に帰れるので金曜日が待ち遠しいです。もうすぐ新学期なのでプアンちゃんは、新しいノートとえんぴつがほしいと思っています。学校の制服も小さくなってきついで、できたらもう少し大きな制服がほしいです。くつもボロボロです。



お兄ちゃんのソンパン君は今度中学3年になります。とても良く勉強ができて、できたら高校、大学に行って先生になりたいと思っています。しかし高校は、30kmくらいはなれた下の町にあり、町の人の家をかりて通わなくてはならず、お金がかかるので高校に行くのは無理なのではないかとあきらめています。夜も家でもう少し勉強したいのですが、家には電気がなくてできません。山の中には電気が来ていないのです。お金のある家では太陽光パネルを取り付

けていますが、ソンパン君の家ではそれはできません。

両親とおばあちゃんは畑で野菜と米を作っています。毎日食べるには米も野菜も足りないのですが、山の中で畑がせまくてこれ以上ふやすことはできません。最近気候がおかしくて、あまり雨が降らないのでますます収^とれが減^へってきています。雨が降らないといつも飲み水にしている山の水も少なくなり、飲み水も買わなくてはなりません。

足りない水や米、肉、卵などを買わなくてはならず、また、ソンパン君を高校に行かせてプアンちゃんのノートやくつなどを買いたいと思い、布を織って刺しゅうをすることが上手なお母さんはこの間、作ったバッグを売ろうと町に行きました。しかし、アカ族の言葉しかできないためにだまされて、あまりお金にはなりません。二か月以上かけて作ったのに、ミシンがなくて手で縫^ぬっているためにこわれやすいのではないかと思われたようです。とても苦労して作ったということを言いたかったのですが、タイ語が話せないのうまく伝わりませんでした。



生活するのに必要なお金が足りないので、最近両親は畑仕事をおばあちゃんにまかせて近所にある大きなプランテーションで働き始めました。プランテーションというのは都会の会社が経営しているとても大きな農場のことです。ここではみかんとお茶を育てており、両親は農薬をまいたり、草をむしったり、みかんの収かくななどの仕事をしています。朝から夕方遅くまで働きますが、給料は少なく、水や米、肉を買うのがせいっぱいで、なかなかノートやくつ、制服代、お兄ちゃんの高校に行く費用にはなりません。両親ともタイ語を話せないために会社の人から差別を受けていて給料が上がらないのです。

妹のサナンちゃんはまだ5才なので学校に行かず、お母さんと一緒にプランテーションに行って、農場の中で遊びながら一日を過ごしています。最近サナンちゃんはせきが止まらずいつも苦しそうにしているので、お母さんは農薬のせいではないかと心配しています。

プアンちゃんの友達サオちゃんの家はプアンちゃんと同じ山の少しはなれた別の村にあります。サオちゃんのお母さんは病気ですが、病院が村の中や、近くにはないので高校がある町まで行かなくてはならず、お母さんを病院に連れていくためにサオちゃんのお父さんは最近バイクを買いました。

バイクはとても高く、お金を借りて買ったのでそれを返すためにサオちゃんのお父さんは町の工事現場で働いています。しかしこの間、バイクで山をおりる時にどろ道で転んで大ケガをして入院してしまいました。山の道がとてもガタガタで曲がりくねっている上に舗装されていないので雨が續くとすべりやすくなります。山岳民族なので健康保険はなく、病院代も薬代もとても高く、ますます借金がふえてしまいました。

近所のおばさんがサオちゃんに学校をやめて町の食堂で働けば、お父さんの病院代やお母さんの薬代になるとすすめて来ましたが、お父さんやお母さんを楽にしてあげたいと思いつつも、サオちゃんは学校をやめたくありません。サオちゃんはたくさん勉強して病院の看護師さんになりたいのです。

プアンちゃんとサオちゃんの学校のタッサニー先生は生徒がみんな色々な心配をしないで生活し、勉強ができるようにするにはどうしたらよいかと悩んでいます。

この間、校長先生から、近いうちに国連の人たちがプアンちゃんやサオちゃんのいる山の村に、みんなが安心して生活ができるよう支援するために来るということをお話してくれました。

タッサニー先生も校長先生と一緒に子どもたちのために何をしたら良いかの話し合いに参加する予定です。



※この話はタイの村の現実の様子を書いたフィクションなので、写真の人はプアンちゃんの家族ではありません。